

学校目標・経営方針	○自ら考え、自ら判断し、自らの考えをもって主体的に行動しようとする生徒、他者を尊重し思いやり、他者のために動こうとする生徒の育成
-----------	------------------------------------------------------------------

山梨県立甲府東高等学校校長 塩沢和明

本年度の重点目標	グラデュエーションポリシー『一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力(行動力/忍耐力/分析力)・疑問をもち、考え抜く力(課題発見力/計画力/創造力)・多様な考えをもつ人々とともに、目標に向けて協働する力(共感力/表現力/ストレスコントロール力)の育成を目標以下を重点目標とする。	達成度 A ほぼ達成できた。(8割以上) B 概ね達成できた。(6割以上) C 不十分である。(4割以上) D 達成できなかった。(4割以下)
	1 「心に灯をともし」教育の実現のため、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善をとおして魅力ある教育活動を展開し主体性を育むとともに、教科内における指導法等の情報共有の促進及び個に応じた指導の充実を図る。	
	2 「心に灯をともし」教育の実現のため、総合的な探究の時間・数探究基礎・課題研究等を中心とする探究活動・体験活動の充実を図るとともに、成功体験等により、自己肯定感・自己有用感の醸成を図る。	
	3 「心に灯をともし」教育の実現のため、学習活動、部活動、学校行事等それぞれの機会において、「育てたい力」を意識した指導を行うとともに、教育活動のすべてに全力で取り組むことができる環境づくりを図る。	

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自己評価			年度末評価(2月3日)				
番号	評価項目	本年度の重点目標	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善をとおして魅力ある教育活動を展開し主体性を育むとともに、教科内における指導法等の情報共有の促進及び個に応じた指導の充実させる。	① 生徒が主体となる授業を目指し、主体的活動や対話的活動を設定し、自ら考えを深めるとともに、協働しながら考察する力を育成する課題探究型授業を実施する。 ② 管理職授業参観や相互授業参観等に多くの教員が参加し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、ICT活用を含めた授業改善の促進を図る。 ③ 研修主宰を中心に指導方法、ICTおよびデジタルデータの活用、観点別評価等について全教員間で情報共有を行い、個に応じた指導の充実を図る。	授業アンケート レポート・プレゼンの自己および他者評価 授業参観票 教科会議での振り返り 教員アンケート 授業アンケート	・わかりやすい授業は生徒93.7%が高いが、保護者の55分授業への評価は76.6%と低い。レポート・発表会の有効性が95%と高く、表現活動の深化により課題解決的学習が活性化したが、今後も深い学びに向けた取組みが必要。 ・授業改善とICT活用は教員90%以上が肯定意見。相互参観や授業アンケートの活用が定着し、教科会議の改善サイクルが安定して機能した。ICT活用の評価は生徒・保護者とも高くなってきており有効活用の浸透が進んできている。 ・研究・研修の共通理解は95%、評価規準の明確化は100%と高く、指導改善の基盤が整っている。シラバスと観点別評価の共有が進み、指導と評価の接続が学年・教科間で円滑に行われた。	B	・小テストや課題量を学年で統制し、学習時間確保と探究・部活動との両立を図る必要がある。 ・授業実践の可視化を進め、授業公開の周知や、学力向上事業のHP公開などを通じ家庭への情報発信を強化する。 ・ポータルフォリオで学習履歴を可視化するとともに、それらを活かした補充・発展指導の個別最適化を実現する授業を進める必要がある。	
2	総合的な探究の時間・数探究基礎・課題研究等を中心とする探究活動・体験活動の充実を図るとともに、成功体験等により、自己肯定感・自己有用感を醸成する。	① 総合的な探究の時間やLHRを活用し、自分の考えを整理し、グループで意見を交換する等の協働活動をおとてコミュニケーション能力や協調性の醸成を図る ② 「総合的な探究の時間」や「センスオブワンダー」を柱とし3年間を見据えた、生徒の自主的な探究活動をサポート、構築する。 ③ キャリア教育推進のための学校行事(インターシップ・ミニ大学・職業人講和等)の継続・発展を図る。	レポート評価 教員・生徒アンケート 計画・実施について検証 教員・生徒アンケート 生徒アンケート 活動実践報告	・教員の探究発表の有効性の高評価は95%と高い。また探究やLHRで発表・対話の機会が増え、表現力と他者理解が全体的に促進された。学びの循環が形成されてきている。 ・体験授業や探究が進路選択と結びつき、主体的な意思決定を促した。進路意識向上に明確な効果が見られる。 ・キャリア事業の充実や進路情報の整理などが進み、三者懇談等を通じた進路支援体制が進展した。	B	・他学年交流や合同発表を拡充し、多様な視点や役割経験を通じて協働力をさらに高めたい。 ・課題設定からまとめの流れを強化し、発表する機会を増やし成功体験を広げる取組が必要である。 ・進路情報を早期かつ反復して提供し、模試結果の迅速な共有で家庭との連携強化を図る。	
3	学習活動、部活動、学校行事等それぞれの機会において、「育てたい力」を意識した指導を行うとともに、教育活動のすべてに全力で取り組むことができる環境づくりを行う。	① 生徒が主体的に計画・実施する行事により、帰属意識の醸成と互いに支えあう集団育成を図る。 ② 部活動、学校行事、ボランティア活動等に積極的に参加させ、充実感や達成感を体感させることにより、豊かな人間性の育成を図る。 ③ 防災・防犯に向けた危機管理体制の確立と施設・設備の定期点検による安全の確保を行う。交通マナーの向上や挨拶等の指導により、社会性の向上を図る。 ④ 業務の削減と整理に組織的に取り組み(会議資料のペーパーレス化や校務DXによる円滑な情報共有や情報活用)、教職員各自の研修の機会を確保する。	生徒アンケート 生徒アンケート マニュアルの整備と訓練の実施状況 危険箇所把握、対応 教員・生徒アンケート	・学園祭の自主的運営は生徒98.6%が肯定し、保護者の行事評価も97.1%と極めて高い。生徒会主導の企画運営が定着し、役割分担と協働が深化してきた。 ・部活動の活発さは生徒・保護者とも高評価である。保護者の学校生活への満足度も良好である。 ・マニュアル整備や防災訓練の実施により、学校内の安全確保体制が着実に定着した。 ・挨拶・マナーは保護者で肯定割合が高いが、指導の公平性評価は70%台で課題がある。 ・会議資料のペーパーレス化、Teamsによる情報共有は進んできており業務効率化に寄与した。	B	・行事日程を早期に周知し、生徒が十分に検討、協議して行事に取り組めるようにする必要がある。 ・学習と部活動の両立ができるよう、課題量の可視化を図り、生徒が自分で調整できるようにし学校生活に臨めるようにする。 ・危機管理情報の保護者周知は年々上昇している。BLEND活用など情報源の周知徹底を図る。登下校時の自転車運転指導も強化する。 ・指導基準の再確認と研修でばらつきを無くし、家庭・地域との協働指導体制を強化する。 ・さらなる校務DXの推進や行事の精選を図る。	

学校関係者評価	
実施日(令和8年2月16日)	
評価	意見・要望等
4	・生徒主体の学びが着実に進展している。生徒の主体性を重視した探究的な学習が継続して実践され、対話的で深い学びの実現に向けた取り組みが着実に進んでいる。教員と生徒が互いに関わり合いながら学びを作っている。 ・ICT活用が定着し、教員の活用も向上している。授業でICTが自然に使われ、教員のスキル向上が見られる。アンケート結果からも積極的な活用が多いことがうかがえる。公開授業でもICTが授業に溶け込み、協働的な授業改善の成果が評価されているが、ICTの効果的な活用をさらに研究し、生徒理解を深めながら個別最適な学びにつなげる取組の充実が期待されている。 ・教員間の協働や授業改善の体制が機能している。授業参観や公開授業を通して教員同士が学び合い、ICT活用や探究型授業の改善に向け組織的に取り組む協働体制が整っている。
3	・主体性の育成には長期的な視点が必要であり、特にキャリア教育では発達段階に応じた活動が求められる。3年間を通じた計画のかつ継続的な取組の推進が期待される。 ・教員のカウンセリングマインドが生徒の成長を支えている。アンケート結果から、教員に生徒理解と対話を重視した姿勢が醸成されていると感じる。自己肯定感・自己有用感をさらに高めるための関わりが継続して実践されている。 ・選択肢が多様化する現代において、生徒が将来を主体的に考えられるよう、キャリア教育の内容充実が期待される。より幅広い視野を育む継続的な機会の提供が求められる。 ・探究的な学びや協働的活動が、生徒のコミュニケーション力向上に寄与している。社会人講師との交流が生徒の将来像を広げており、今後も継続が望まれる。
3	・生徒が主体的に行事や部活動を運営し、帰属意識や協働性が高まっている点は評価できる。良い風土が後輩へ受け継がれるよう、今後も継続的な支援体制や組織的なサポートの充実が求められる。それらの活動や経験を「生きる力」に発展させるため、活動の振り返り機会や地域連携の拡充が課題となる。 ・防災訓練への効果性が示された点は課題であり、訓練の目的や有用性を再確認する必要がある。消防署など外部機関の協力を得て、実効性のある訓練を継続し、安全確保体制をより強固にすることが求められる。 ・校務DXや働き方改革の更なる推進が課題である。ペーパーレス化と情報共有の効率化を進める必要がある。教員の研修機会を安定的に確保するためにも改善のために体制づくりが期待される。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。